

**WEEKLY SIGNAL**

平成30年9月14日(金) 1441号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	9/17(月)	9/18(火)	9/19(水)	9/20(木)	9/21(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 1,100	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他		+ 11,200	+ 4,000	+ 74,000	△ 8,000
資金需給		+ 12,300	+ 4,000	+ 74,000	△ 9,000
主な要因		国庫短期証券発行償還(3M) 国債償還(2年)		国庫短期証券発行償還(1Y) 国債償還(5年・10年・20年・変動15年)	国債発行(20年)
オペ期日		共通担保 △ 1,300 CP等買入れ △ 900 社債等買入れ △ 200 補完供給 + 300			被災地支援 △ 800
オペスタート	祝日	共通担保 + 1,900 国債買入 + 7,100			被災地支援 + 800 社債等買入れ + 1,000
(日本)		日銀金融政策決定会合(1日目)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁の会見 貿易収支(8月)	自民党総裁選 資金循環統計(速報、4-6月期)	消費者物価指数(全国8月) 全産業活動指数(7月)
(海外)	欧 ユーロ圏CPI(8月)	米 NAHB住宅市場指数(9月) 米 対米証券投資(7月)	欧 ドラギ ECB総裁、講演(ベルリン) 米 住宅着工件数(8月) 米 経常収支(4-6月)	米 新規失業保険申請件数 (9月15日終了週) 米 景気先行指標総合指数(8月) 米 中古住宅販売件数(8月)	欧 ユーロ圏総合PMI(9月、速報) 欧 ユーロ圏製造業PMI(9月、速報) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(9月、速報)

**[インターバンク市場]**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初、383兆6,100億円から始まった。短国、国債の買入れ(10日、12日、14日)があった一方、短国、国債の発行(10日、12日、14日)も続いたため、当座預金残高は増減を繰り返し、週末は384兆7,100億円で越えた。無担保コールON物金利は、積期最終週であるものの、調達を急ぐ動きは見られず、軟調な地合いであった。加重平均金利は10日△0.054%であったが、日を迫うごとに調達量を抑える先が複数先みられ、徐々に低下した。積期最終日となる14日は来積期までかかるON物となったため、一段と弱い地合いとなった。△0.08%台の出合も複数件見られ、加重平均金利は△0.062%まで低下した。ターム物は期内物となる1~2W物では△0.03%台で地銀同士の出合が散見された。期越え物については動意に乏しかった。9月10日、日本銀行は基準比率の見直しの発表を行い、2018年9月~11月積期間の基準比率を34.0%とした。なお、次回の見直しは12月10日公表予定。来週は、国内では、日銀金融政策決定会合(19-20日)、自民党総裁選(20日)、海外では、ドラギECB総裁の講演(19日)、米中古住宅販売件数 8月分(20日)などが予定されている。

**[オープン市場]**

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<C P>**

今週の入札発行総額は約9,000億円で、週間償還総額の約1兆1,800億円を下回った。発行市場は、各業態から大型案件が見受けられたが、商社や食品業態での期日落ち切りが大きく償還超となった。週末の発行市場残高は、19兆1,000億円弱と先週末(約19兆6,000億円)から減少した。発行レートは、期内物は0%近辺~浅いプラスレートの出合。期越え物のレートについては、一部に深いマイナスレートが見られた。CP等買入オペ(14日スタート)は、予定より500億円増額の5,000億円がオフアされた。按分レート△0.016%、平均落札レート△0.010%と、前回(按分△0.007%、平均落札△0.004%)より低下する結果となった。来週の償還総額は、1兆1,900億円程度となっている。有利子負債の圧縮要因から期日償還が多く、また新規案件も減少するため、やや開散なマーケットとなるだろう。発行レートは、引き続き期内物が0%近辺~浅いプラスレートでの出合、期越え物がマイナス~0%近辺での出合を予想する。

**<TDB>**

14日に行われた3M783回債入札は、最高落札レート△0.1196%(前回債△0.1323%)、平均落札レート△0.1244%(同△0.1391%)と前回からマイナス幅を縮小し軟調な結果となった。セカンダリー市場ではやや買が見られ、同3Mは△0.13%程度と底堅く推移した。来週は18日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGCは、週央にかけて△0.105%~△0.095%の出合が続いた。14日受渡しは資金調達サイドが様子見の時間帯もあったが、最終的には△0.10%近辺が出合の中心となり、週末も同水準での推移となった。

SC取引では5年136回債のbidが多く、入札日前日にかけて△0.30%台半ばの出合が見られた。10年351回債は、週を通して概ね△0.10%台前半で取引された。

その他2年389・390・391・392回債、5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。